# 航空連合NEWS

発行: 航空連合/発行人: 長谷川 樹 〒144-0041東京都大田区羽田空港1-6-5 第5綜合ビル5階 TEL (03) 5708-7161 FAX (03) 5708-7163



**JFAIU** 

## 第250定期大会を開催!

航空連合は、10月3日、東京・大田区産業プラザPiOにおいて、約300名の代議員、 執行部の出席のもと、第25回定期大会を開催しました。

コロナウイルスに苦しめられた長いトンネルからようやく抜けつつあるが、いまだ企業の財務体質や人員体制、産業のイメージは大きく傷ついており、回復にはまだ時間が必要である。特に、全国どの職場でも深刻な人材不足に陥っているなか、働く仲間が産業の基盤である安全を懸命に守っている。そうした状況だからこそ、足下の職場の問題をひとつずつ改善、解決しながら、中長期的な視点でやりがい、働きがいのある魅力ある

職場をつくっていくためには、労働組合の役割が一層重要になる。加えて、職場の声に基づいて労働条件の向上や経営のチェック機能を果たすことができる労働組合の存在は、「ホワイト企業」である安心感を働き手に対して与える役割を発揮しており、労働組合の価値はますます高まっている。

第24期は産業・企業の存続と雇用の確保をめざし、公租公課の減免や水際対策の見直し、原油価格高騰への対応、旅行需要喚起策の要望などに加えて、雇用調整助成金の特例措置の延長などを産業政策として政府に要請し、着実に実現してきた。また、航空機内での盗撮を厳しく取り締まる「撮影罪」の可決・成立を実現するなど、働く仲間が安心して仕事できる環境の整備や、働く仲間の負担の軽減にも精力的に取り組んできた。今後も産業政策実現の取り組みを強化し、産業レベルでの「圧倒的な生産性向上」を早期に実現する必要がある。

2023 春闘を「産業の転換点」と位置付け、コロナからの反転攻勢をめざし、産業の安全や品質を支える「人への投資」を強く求めた結果、多くの労組で過去最高の有額回答を得ることができた。大きな成果を得た一方、真の意味で「産業の転換点」を確固たるものとするためには、働き方の見直し

など、労働条件に関する課題に向き合うとともに、賃金に関しても今回の要求水準や回答を出発点として、継続的な賃上げに取り組んでいく必要がある。また、高い専門性が求められる私たちの産業にとっては、多様な仲間が長く安心して働き続けることができる風土や環境を整備することも極めて重要であり、「航空連合 ジェンダー平等推進計画」の確実な達成をめざして取り組まなければならない。そして、取り組みの範囲を産業全体に広げ、組織拡大に取り組むとともに、労働条件や働きがい、やりがいの向上を通じて、私たち自身がこの産業で働く魅力を積極的に社会に発信し、人材の確保・育成・定着を実現する必要がある。

航空連合ビジョン「いつの時代も社会から必要とされ、働く仲間がやりがいを感じ、 誇りをもって働ける産業」の実現をめざし、産業で働く仲間と力を結集し、いっそう精 力的に取り組んでいく。 ●第一号議案

第24期活動報告及び第25期-第26期運動方針(案)

●第二号議案

第24期決算報告・剰余金処分(案)、第25期予算(案)

●第三号議案

・中期労働政策方針 <u>(2022-2025) ローリング(案)</u>

●第四号議案

2023-2024 産業政策提言(案)

●第五号議案

第25期役員の選出

大会に付議された 議案は全て可決 承認されました。

## ご来賓挨拶

連合 芳野友子会長、立憲民主党 枝野幸男衆議院議員(航空連合政策議員フォーラム会長)、国民民主党 玉木雄一郎代表(航空連合政策議員フォーラム副会長)、国土交通省航空局 田中知足官房技術審議官、空港グランドハンドリング協会 小山田亜希子会長から激励のご挨拶をいただきました。



連合 芳野友子 会長



立憲民主党 枝野幸男 衆議院議員 (航空連合政策議員フォーラム会長)



国民民主党 玉木雄一郎 代表 (航空連合政策議員フォーラム副会長



国土交通省航空局 田中知足 官房技術審議官



空港グランドハンドリング協会 **小山田亜希子 会長** 



航空連合ビジョン

いつの時代も社会から必要とされ、働く仲間がやりがいを感じ、誇りをもって働ける産業

## 第25期-第26期運動方針(案)

第25期-第26期の2ヵ年の運動方針について、「産業政策」と「労働政策」の連動による「圧倒的な生産性向上」に取り組み、航空 連合ビジョン「いつの時代も社会から必要とされ、働く仲間がやりがいを感じ、誇りをもって働ける産業」の達成に向け、運動を加速 していくための運動方針案が確認されました。

- 代議員 2024 春闘に向けては航空連合とともに人への投資の観点で取り組みを継続して進めていきたい。 特に、春闘交渉においては、航空連合の方針の影響は大きい。航空関連産業の一員として、産業 全体での人への投資と魅力の向上が大切である。
  - 執行部 2024 春闘に向けては追い風がある状況である。確実な転換点とするために、取り組みを継続し ていく必要がある。航空関連産業の横のつながりを強め、機運醸成に努めていくことが重要で
  - 代議員 2023 春闘では過去最高の賃上げ回答があった。賃金の上昇に加えて、雇用の安定についても重要 であると考えている。
  - 執行部/コロナ禍での人材不足が顕在化し、スキルを持った人がいなくなったことは会社にとっても大きな 損失となった。資格やスキルをもった人を一から育てないといけない局面になっている。人材を確保 し続けることは人件費の増加につながるかもしれないが、人材育成にかかる時間を考慮すると必ず しもマイナス要素だけとはならない。今後 DX など求められるスキルが変わっていくことを考えてい く必要がある。雇用の安定含め、人への投資は重要であるという認識で春闘を進めていきたい。
  - 代議員 24期のWINCに参加したが、マインドのあり方や、周囲の働きかけなど多くのことを学ぶことがで きた。ジェンダー平等推進フォーラムを含めた航空連合の活動は職場の理解促進にも大きく寄与し ていると感じる。ジェンダーは男女だけではなくLGBTQなど幅広いため、誰もが安心して働ける 産業を目指していけるよう、航空連合の取り組みをさらに推進してほしい。
  - 執行部 ジェンダー平等推進について、本大会の女性参加率は33.3%と未達成ではあるが、達成のために 何をすべきか、執行部だけではなく、加盟組合の皆さんと一緒に考えていきたい。ジェンダー平等 や多様性の推進を広めていくが、頭では理解できるがそれを実行していくことが難しい。それぞれ 悩みながら進めているとは思うが、情報を共有し合いながら前に進めていければと考えている。
  - 代議員人材確保が最大の課題とあるが、確保のみならず人材を定着・拡大させることが重要である。 NEWS配信や活動方針について職場に浸透させることが難しいと考えている。産業で働く魅力向 上に向けた取り組みに関して、現段階でのイメージ、具体案について確認したい。
  - 執行部 魅力発信に向けて、お仕事図鑑の充実化を図っている。また、お仕事インタビューでは旅客・ランプ・ 貨物の分野を取り上げてきた。この3つの職種はコロナ禍前から人材確保に苦労してきたという課 題がある。どういった魅力発信の取り組みを行うか検討している最中であり、昨今、「だからこの仕 事が好き」という新しいウェブサイトをオープンした。これらを起点として様々な取り組みを知って もらえるような活動を行っていきたい。







## 中期労働政策方針 (2022-2025) ローリング(案)

第24回定期大会で決定した航空連合として中長期的な視点で目指したい労働条件の目標をまとめた「中期労働政策方針 (2022-2025)」の進捗について確認するとともに、目標達成に向けた今後のローリングについての報告がされました。

- じている。産業としての生産性指標について、プロセス含めて経営や職場に説明いただくのはありがたく、今 後、議論を深めていきたい。航空連合の生産性指標について、外部に共有していく予定はあるのか確認したい。
  - 執行部 航空連合の生産性指標の開示と共有に関しては、策定したばかりでこれから浸透させ、活用してい く段階にあるが、お示ししていきたいと思っている。経年変化を見ていき、活用できるようにして
  - 【代議員】 生産性向上について、生産量の増加によって総実労働時間も増えており、個社労使にて議論をして いる状況である。そのなかで労働時間を増やさずに生産性をあげることが課題だと思っている。生 産性向上を進め、心のゆとり、働き方にゆとりができれば、働きがいにつながり、事情がある方も 含めて、休暇の取りやすさにもつながる。柔軟な働き方をしていくには単組だけの取り組みでは難 しいため、航空連合とも連携していきたいと思っている。
  - 執行部/総実労働時間の抑制と生産性向上は両軸でしっかりと考えていかなければならない。2023春闘で は公休増を勝ち得た労組も多かったが、現場をみると年次有給休暇の取りづらさが引き続き課題と してあがっている。今、働いている人たちが心身ともに健康に働けるような環境が必要だと考えて いる。航空関連産業の魅力向上に向け、航空関連産業に携わってよかったと思える環境・労働条 件の構築を目指していきたい。



## 2023-2024産業政策提言(案)

働くものの立場から航空関連産業の健全な発展を目指し、策定された産業政策提言が確認されました。

質疑

代議員 政策提言について、国や行政への働きかけが重要であることを理解した。前段の議案でもあったよ うに、ジェンダー平等推進や育児・介護など家庭と仕事の両立を実現していかなければならない。 多様な働き方を認める一方で、生産性向上をめざしていくなかでは、育児・介護などをしながらも 働き続けられる環境づくりを進めていかねばならない。単組だけではなく、航空関連産業に集う仲 間と相互に議論をしながら、航空連合という大きな力で国や行政に働きかけをおこない、環境や仕 組みを作っていくことが必要だと思う。地方別の取り組みに関しては、単組での提言や個社労使の 議論、航空連合での提言によって課題が改善されていると感じている。

- 執行部 労働政策と産業政策の狭間にあると思っている。多様性については一つではなく様々あると考えており、 男女比率や年齢層の違いなど、個社によって違いがある。自分たちの課題を正しく認識した上で解決し ていくことが必要である。日本全体の課題については、航空連合の政策活動の中でご発信いただきた い。航空連合としては、法制度の改正動向など世の中の情報をキャッチアップし、丁寧に見ていきたい。
- 【代議員】 日本では2030 年までに消費燃料のうち10%をSAFとすることを目標としている。 ヨーロッパではさらに 進んでおり、SAFの使用義務化などの法制化が進んでいる。近い将来、日本にも影響が出る可能性が あり、航空関連産業全体に大きな影響をもたらす。SAFに関しては日本全体のエネルギーの問題だと感 じており、航空連合としても、引き続きSAFの利用促進、生成の取り組みに提言を続けていただきたい。
- 執行部 2030年の目標を達成できないと、世界のエアラインが日本への就航を拒んでくる可能性もある。しかしな がら、実態として航空会社個社では達成が容易ではないため、国のお金を投じて促進することをしっかり求 めていきたい。義務化そのものには賛成ではないスタンスだが、インセンティブをつけるなどの提言を今回 行っている。航空連合としては、SAFの製造側の理屈や論理・難しさなどについて勉強するため、石油業 界に関わる産業別労働組合との対話もあわせて進めており、内容を今後フィードバックしていきたい。
- 代議員 航空産業におけるDXとDXを担う人材育成の必要性を感じている。人材の確保や、人材を適材適 所に配置することで人材育成にもつなげていってほしい。加盟労組にはDXを担う部門をもつ会社 もあると思っている。航空連合として、DX推進に向け、どのように推進をしていくのか、具体的な 取り組みを教えてほしい。
- 執行部 DX人材について、国では様々な施策を進めている。産業政策提言でも、省人化・無人化など国が 様々な技術を導入していることについては、産業政策提言の冊子で紹介している通りである。実装 されたり、実証実験が進んでいる空港もあるが、スピードの遅さが課題であり、さらにスピード感 をもって進めてもらえるように要請行動を行っていきたい。AIや新技術については、トライ&エラー での取り組みで得た知見を反映する必要性など、そうした提言も行っていきたい。
- 代議員 これまでの産業政策に関して、単組では達成できず航空連合であるから達成できたと感じる。特に、 これまで長年の悩みであった保安検査の責任主体の見直しについては非常に前向きに捉えている。また、スマートレーンの導入につい ては羽田や成田などの基幹空港だけではなく地方の空港にも導入していただけるよう提言していただきたい。
- 執行部 提言だけではなく、地方政策での論点としても取り扱いたい。地方の各組織において、目の前で起きていることについて、空港事業 者やCABに共有する手段としては、提言だけでなく定期的な協議・意見交換をする環境を整えることが大切だと思う。地方空港にお ける課題を指摘していくプロセスを一緒に作っていきたい。
- 代議員 撮影罪について、客室部会ではアンケートやこれまでの議論を踏まえて、法制化に向けた取り組みを進めてきた。7月13日に法が施 行されたが、3カ月ほどたっても、まだ意識されていないと感じる。社会への周知にも力を入れていただきたい。
- 執行部無断撮影で取り締まれる範囲は限定的であるため、無断撮影に対する明確化は引き続き進めていきたい。周知について、ポスターの 掲示や機内での案内などは把握しているが、周知不足については引き続き議論していきたい。客室乗務員のマニュアルでも各社で改 訂されていることを確認した。そこを浸透させるのが部会の役割でもあると思っている。

は、航空関連産業で働く仲間・労働組合が大同団結し、産業の魅力の向上や基盤の強化に向けて1999年10月に結成された、 航空労働界を代表する最大の産業別労働組合です。57の企業別組合の44,306人(うち客室乗務員約15,000人)で構成され、 ナショナルセンター「連合」に加盟しています。





















ニュース・航空連合へのご意見は E-mailでお受けしています。

アドレス avinet00@jfaiu.gr.jp ホームページ https://www.jfaiu.gr.jp アルコール関連相談窓口をご活用ください。

航空関連産業での飲酒に係る不適切事案の根絶に向けて、定期航空協会が 無料の相談窓口を設けております。航空会社に所属する方のみならず、航空 連合加盟組織の皆様も利用可能です。相談内容は決して、勤め先企業にも定期航空協会にも伝わりませんので、お気軽にご相談ください。



### 05 第25期役員の選出

#### ●会長(1名)

内藤 晃 ANA労働組合

#### ●副会長(6名)

白石 哲也 ANA労働組合 古藤田 裕 JAI 労働組合

小川 俊信 JAL グランドサービスグループ労働組合連合会

柳橋 愛海 ANAエアポートサービス労働組合

高橋 修平 ジャムコ労働組合

川平 朝之 ダブルツリーヒルトン那覇首里城労働組合

#### ●事務局長(1名)

長谷川 樹 JAL労働組合

#### ●副事務局長(4名)

坂元 慎平 ANA労働組合 赤池永梨奈 JAL労働組合

三浦 知宏 JALエンジニアリング労働組合

玉那覇 仁 ANA沖縄空港労働組合

#### 中央執行委員(20名)

三輪谷 樹 ユニオン エア・ドゥ

交 宮尾 日本トランスオーシャン航空労働組合 川合 保寛 JALエンジニアリング労働組合 大越 裕貴 ANA成田エアポートサービス労働組合

## 退任される第24期役員の方々

土井 崇子 ANA関西空港労働組合

大場 雄太 ANAラインメンテナンステクニクス労働組合

新垣 真一 JALスカイエアポート沖縄労働組合

藤倉 弘一 中部スカイサポート労働組合

健理 営間 羽田空港グランドサービス労働組合

石原 有約 ANA X 労働組合 竹腰 宏明 ジャルパック労働組合

清水 堅太 JAI UX UNION

飯田 千瑛 ANA労働組合 溝口 由紀 JAL労働組合

古瀬 由希 スターフライヤーユニオン

伊藤由希子 JALグランドサービスグループ労働組合連合会

内村 安里 ANAエアポートサービス労働組合 西山奈津実 ANA成田エアポートサービス労働組合

山田友佳里 ジャムコ労働組合 上田あゆみ ANAあきんど労働組合

#### ●会計監査(2名)

須之内辰憲 ANA労働組合 宇津木健佐 JAL労働組合

#### お疲れさまでした



## 07 大会宣言の採択



## 航空連合 第25回定期大会 大会宣言

航空連合は、1999年の結成以来、航空関連産業で働くすべての仲間の幸せを実現するため、産業の基盤である安全の確保、 産業政策の実現、組合員の労働条件の向上や仲間の輪の拡大などに精力的に取り組み、幾多の危機を乗り越えてきました。コ ロナ危機からの出口が見え始めた第24期は、産業の存続と労働条件の改善に重点を置き、一丸となって精力的に取り組み、 多くの成果をあげることができました。

新型コロナウイルスが感染症法上5類に変更され、入国制限などが緩和されたことで、空港や観光地は多くのお客様で活気 を取り戻しています。しかしながら、私たちの職場では、コロナ禍における離職や新規採用の抑制と、急速な需要の回復が相 まって、ひとり当たりの業務量が増加し、深刻な人材不足に陥っています。そのような状況においても、お客様に安全運航や安 全・安心な商品・サービスを提供すべく、多くの仲間が懸命に業務に向き合っています。

公共交通機関として社会インフラを支える私たち航空関連産業は、今後の日本社会にとって必要 不可欠な産業です。私たちがその社会的使命を果たし、持続的に成長していくためには、安全運航 の堅持を前提に、「圧倒的な生産性向上」と「人への投資」の好循環を実現することで、やりがい・働 きがいのある魅力にあふれた職場をつくっていく必要があります。そして、私たち自身が航空関連 産業で働く魅力や誇りを積極的に発信し、産業を支える人材を確保・育成・定着させていくとともに、 この運動をともに進める仲間の輪を拡大していくことが、今求められています。

私たちは航空労働界を代表する産業別労働組合としての責任と自覚を持ち、航空連合に集う57 組合、44,306名の仲間との相互信頼を深め、英知を結集して、航空関連産業の成長・発展に貢 献していきます。そして、航空連合ビジョン「いつの時代も社会から必要とされ、働く仲間がやり がいを感じ、誇りをもって働ける産業」を自らの手でつかみとることを宣言します。



2023年10月3日 航空連合第25回 定期大会 中央執行委員 飯田 千瑛